

## 国際小児がんコーホートコンソーシアム (I4C) ワークショップ参加報告

メディカルサポートセンター 目澤秀俊

2014年11月17日～18日にフランス・リオンにある国際がん研究機関 (International Agency for Research on Cancer : IARC) にて、国際小児がんコーホートコンソーシアム (International Childhood Cancer Cohort Consortium : I4C) ワークショップが行われ、メディカルサポートセンターより寺島慶太、目澤秀俊の2名が参加しました。

I4Cは小児がんの発生に焦点をあて、世界各地の出生コーホート研究の連携・協調をはかることを目的に結成されました。今回で7回目のワークショップの開催となります。

日本においては、年間2,000～2,500人のお子さんが「がん」と診断されており、小児の死亡原因の上位を占めています。また、メカニズムの究明や効果的な治療方法の開発が求められる疾患の一つです。しかしながら、発症率は1万人に1人程度であり、10万人を対象とする大規模な日本のエコチル調査でも小児がんの方は10人程度ということになります。そのため、各国のコーホート研究の規模だけでは、原因を究明するために十分な情報が得られないという問題が生じます。そこで、世界中のコーホート研究のデータを組み合わせで調べていこうというI4Cの活動がスタートしました。

I4Cにはアメリカ、イギリス、オーストラリア、フランス、スペイン、デンマーク、ノルウェー、中国、日本が参加しています。日本のエコチル調査のように調査途中の国と20世紀後半にすでに調査を終えている国が集まり、新旧コーホートをどのように協調していくか、新しいコーホートは何を共有していくべきかなど、活発な議論が交わされました。

エコチル調査においても2014年から小児がんの調査がスタートしました。国内の小児がんの発生と環境物質との関連を解明すると同時に、将来的に海外の研究データと協調させることで、エコチル調査自体の意義が益々深まることを再確認いたしました。

